

# アルツハイマー型認知症の治療について

## 脳にゴミがたまって発症する

認知症はいくつかの種類に分けられますが、そのなかで最も多いのがアルツハイマー型認知症で認知症全体の約6割を占めています。

アルツハイマー型認知症のある人の脳には“しみ”や“ごみ”のようなものが、たくさんできています。これは、脳に不要なたんぱく質「アミロイドβ」や「リン酸化タウ」がたまってできたものです。

アミロイドβがたまると、それに誘発されて、神経細胞の中にリン酸化タウがたまるようになります。こうなると、神経細胞の壊死が起こり、脳が次第に委縮していきます。こうして起こるのがアルツハイマー型認知症です。

脳の萎縮は海馬という記憶をつかさどる部位の周辺から始まります。そのため、最初に記憶障害などの症状が現れます。進行すると脳全体が委縮して、認知機能が低下し、日常生活を送るのに支障を来すようになります。重度になると運動機能の障害も起こってきます。

## アルツハイマー型認知症の症状



加齢による、心配のいらぬ物忘れとは異なり、体験したこと全体を忘れてしまう。症状として最初に現れることが多い。

いつも使っていた道具の使い方が分からなくなったり、自分で着替えるのが難しくなる。



立ったり、歩いたりすることが難しくなり、寝たきりになる場合もある。



## 注目されている生活習慣病との関係

糖尿病、高血圧、脂質異常症などの生活習慣病があると、アルツハイマー型認知症が起こりやすいことが知られています。特に糖尿病のある人ではリスクが2倍以上になるという研究結果が報告されています。糖尿病のある人でアルツハイマー型認知症が起こりやすいのには、血糖をコントロールしているホルモンであるインスリンの働きが関係しています。インスリンは、血糖値をさげるだけでなく、脳ではアミロイドを除去する働きもしているのです。

糖尿病があると、脳の中でインスリンがうまく働きにくい状態になってしまいます。そのため、アミロイド $\beta$ の除去が滞り、脳内に徐々に増えてしまうのです。

たとえアルツハイマー型認知症を発症したとしても、血糖・血圧・血中脂質などを適正にコントロールしていくことが大切です。しっかりコントロールできれば、認知機能の低下が抑えられるのが明らかになっています。また、今はまだ発症していなくとも、生活習慣病の治療にしっかり取り組むことが、アルツハイマー型認知症の予防につながります。

アルツハイマー型認知症のある人の中で、生活習慣病の治療を受けているかどうかと、認知機能の関係を調べた研究の結果。30カ月の\*MMSEの点数は19点と13点で、治療を受けているほうが認知機能の低下が抑えられています。

\*MMSE 認知機能検査の一種。30点が満点で、一般に23点以下になると認知症が疑われます。